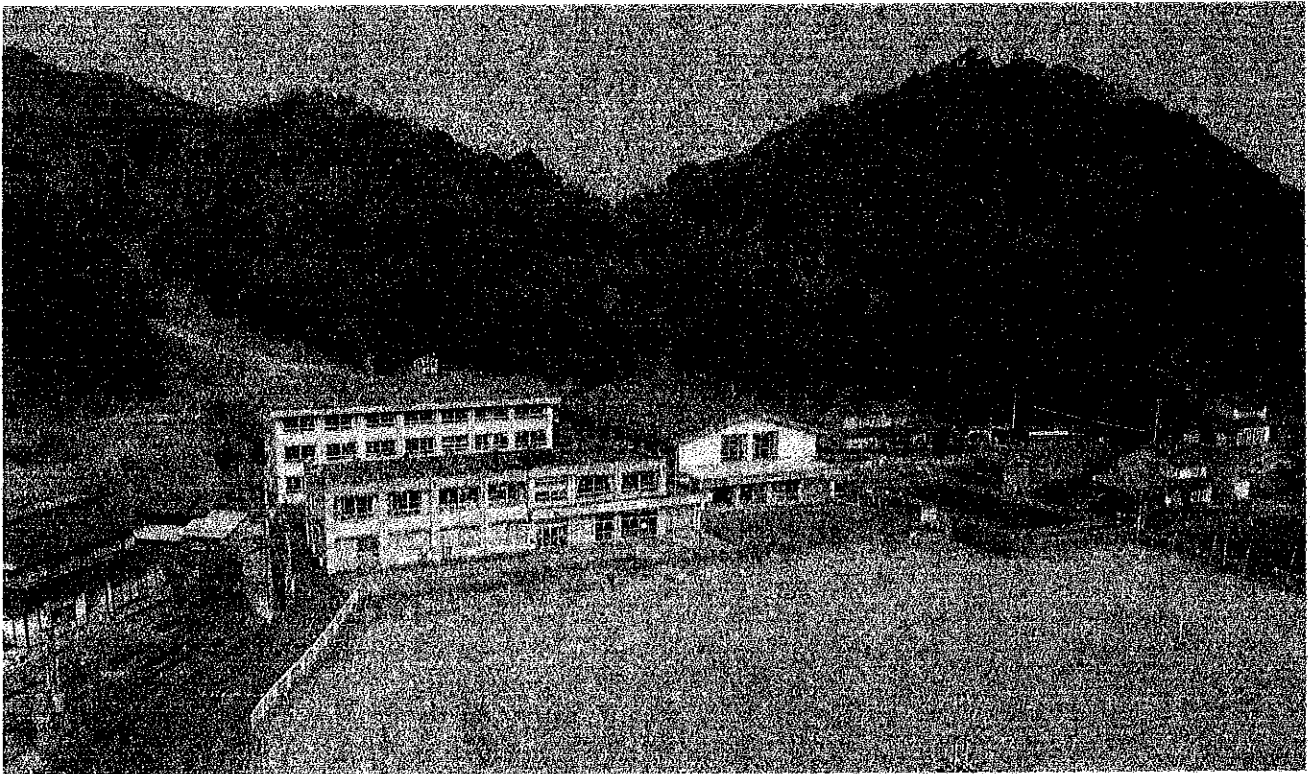


第61号

# 上宮津公民館だより



上宮津地区公民館

平成26年3月号

## 上宮津公民館だより発刊にあたって

田舎暮らしのすすめ

公民館長 智原芳明

吹く風も北から南にと変わり、風にそよぐ菜の花に本格的な春の訪れを感じる季節となりました。

のどかな光景を見るにつけ、今年度を振り返ると、さまざまな出来事がありました。

想定外の豪雨、台風、豪雪をもたらした異常気象による災害など、自然相手の現象で人の手が及ばないものが特に多かったことです。

困難を極める東北地震災害の復旧復興をはじめ、近くにある有害鳥獣対策など人の知恵と工夫で解決しなければいけない問題なども多くあります。

上宮津小学校の閉校まであと一年を残すのみとなりました。一四〇年間の歴史に終りを告げ、公民館の前の広大な場所に人影が無くなってしまふことに無念を感じます。

今後の跡地の利用については、上宮津のシンボリックな存在として有効利用が出来ることを切望するところです。

公民館活動におきましては、皆様のご協力を持ちまして、当初計画をしていました事業に加え、文部科学省からの委託事業に取り組んできました。

上宮津のみならず地方にあつては、高齢化人口の増加と若者の減少傾向で地域力が落ち込んでいます。一方、都市部においても地域の空洞化が目立ち、自治会組織や活動の低下を来していると分析されています。

そこで今回その穴を埋めるべく文部科学省は、宮津市に対して社会教育を通じて地域の活性化に取り組もうとする公民館が無いものかと打診がありました。上宮津地区公民館だけではとても荷が重過ぎる事なので、地域会議の支援を受けて住民参加による手作りマイ防災マップ作りに取り組むこととしました。

二年間の継続事業を目指し、初年度は、小田五・六区、喜多十区・十一区、それに今福十三区・十四区をモデル地区として実施しました。各地区とも数回のワークショップ形式の会議を積み重ねて頂きました。京都府立大学や地域の関係団体の皆様に厚くお礼申し上げます。来年度も宜しくお願いいたします。

今年の男の料理教室は鶏肉料理をしました。

食材を買いに宮津市内の鶏肉店へ行つたときの事です。ご主人に先立たれ、今は奥様が店に出ておられました。

「ここに公設市場があつた頃は、どこの店もようはやつて活気があつたでえ」「どこもここも閉めてしても。今しとるとここは数えるほどしかあれへんで」「この通りで医者が来とんならん家はあれへんで」とも。今昔話をして下さいました。

現役時代、郵便配達をしていて当時を知る一人として、余りもの変わりように心を痛めていました。それでも乗り越えて頑張っておられる奥様に勇気をもたらした気がしました。

けれども帰りの車の中で「シヤッターの裏の生活はどんなだろう」と考えがよぎりました。

今や過疎化や高齢化は農村や田舎だけの事ではなく、むしろ街中にとつても深刻な状況といえます。生活の拠点が自宅であることが多く、シヤッターで隔離されると過去の栄華も途絶えてしまいます。

しかし、田舎には体力、アイデア、気力さえあれば、まだまだ生きがいのある現役生活が待っています。やりたい事が自分で出来る良き場が残っている所でもあると感じたところです。

上宮津には水のきれいな大平川があります。堂の下橋下流にある親水広場の階段部分は、二期工事半ばで中断した状態のままになっていましたが、年度末に向け工事が再開されました。平成十六年の台風二十三号から実に十年目の完成となります。散歩や子ども連れで、川の水の緩む頃訪れてみてください。きっと上宮津の良いところがもう一つ増えると思います。

# これからの上宮津の姿

自治連会長 細見 節夫

平成十六年の台風二十三号は宮津市制五十周年の記念事業上宮津ロマン街道ウォークを実施した日の三日後の十月二十日に襲来した。それから十年、今年には宮津市制六十周年を迎える。

平成十六年の上宮津の世帯数は六百六、人口千五百、十年経過した今日世帯は五百六十五、人口は千二百二十五人で世帯は四十一世帯、人口は二百七十四名減少した。高齢化率も十割上昇し、四十パーセントを超える超高齢化社会になった。

上宮津小学校は来年度でもって閉校となり、来年度四月から児童は宮津小学校に通うことになる。次表に上宮津小学校の卒業生の経年の推移を示すが、児童が小田、喜多、今福の旧村だけの小学校であったなら閉校の時期は数十年前であったかもしれない。

昨年度これからの上宮津地区のこうでありたい姿を描いて上宮津二千二十二年ビジョンを策定し、今年度からビジョンに基づく取り組みを展開している。

具体的な取り組みの経過はふるさと上宮津ニュース六、七号で広報

しているが、いくつか紹介し理解を得たい。

ひとつは住民が安全安心の街づくりのために自主的に災害時に備えるマイ防災マップを作成する取り組みである。

この取り組みは文部科学省の公民館を中心とする社会教育支援事業の指定を受けて、京都府立大学の指導を受けて展開してきた。二月には東京で成果発表会が行われ上宮津公民館長が報告した。

二つ目は女性サロン『サロン・ド・カミヤツ』の立ち上げとサロンの定期開催で六、十二、三月それぞれ季節に応じた女性による里力再生のイベントを実施した。上宮津の全地区から多くの女性が参加して交流を深め高齢者の福祉増進に向けて動き出した。今後より多くの女性の理解と協力を得て組織を発展させていきたい。

三つ目は、上宮津農業会議の立ち上げを行った。農林業だけでは生活が成り立っていかぬ今日、後継者はなく農林業の将来はきわめて厳しく、年々耕作放棄地が増え続けていく現実を直視し、少し

でも希望の光を見出すため上宮津地区の農業関係者が一丸となって取り組む組織を立ち上げた。先祖から受け継いだ大切な田畑を次の世代に引き継ぐことは私たちの責任である。

四つ目は森林多機能交付金事業の取り組みで、国の林野庁は地域で自主的に里山の保全に取り組みようとしている地域組織に財政支援を行うことを決めた。この事業は3年間の事業で上宮津地区は申請を行い採択された。

地区では上宮津二十一夢会議で毎年古道や杉山林道の保全作業を行っており、また普甲峠、林道、喜多城山では樹木が大きくなつて宮津湾や上宮津谷の展望が開けないため景観保全の伐採作業が必要となつている。また緑の少年団などの環境教育にも力を入れており、これら杉山・大江山・城山の里山保全の取り組みに交付金を活用する。

平成二十六年度は例年以上の里山保全の作業を計画しており、地域の皆さんの積極的な作業協力をお願いしたい。

五つ目は上宮津小学校の閉校記念事業実行委員会の取り組みで、記念誌部会、記念事業イベント部会、総務部会の3部会を立ち上げた。

以上今年度の活動経過を紹介したが、どこの農村社会も将来に向けて地域が発展していく確かな手ごたえを実感しているところはほとんどない。

これから先、若者がどんどんアイトーンやユーターンで増え続けることは夢物語であるが、それでも若い人を受け入れていくための地道な努力を惜しんではならない。人口は減り続け、高齢化率も五割になるのは間近い。

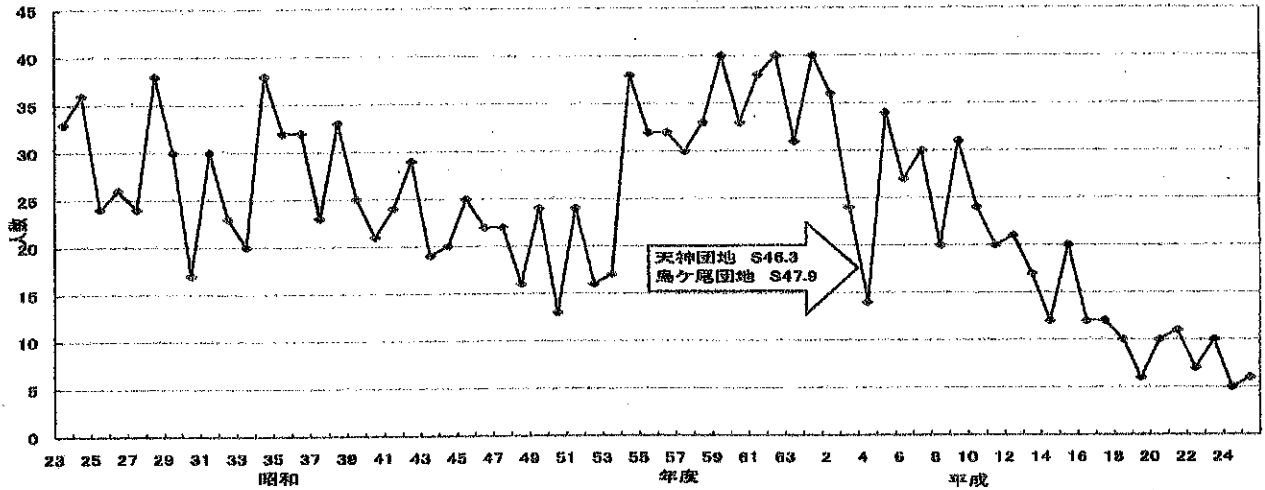
そのことを悲観的に捕らえるのではなく自然の流れとして当たり前のこととして受け入れる必要があると思う。

また一方で高速道路網の整備で都会と近くなり、自然遺産や文化遺産の多く眠る上宮津地区への人々の関心は決して低くなく明るい動きも水面下である。

今私たちにできることは次の時代に少しでも生きがい住みがいのある上宮津を残すためにできることを楽しみながらみんなで協働して進めることである。防災マップや古道の保全作業など上宮津地区は協働で進めていく組織の地盤作りは出来上がっている。

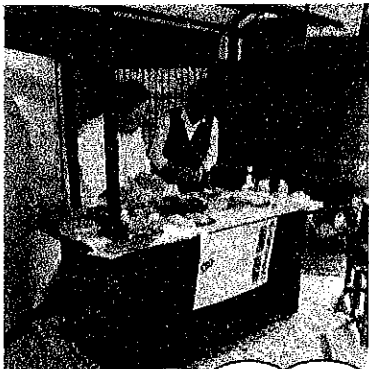
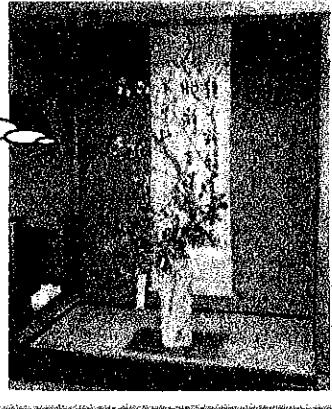
みんなで楽しみながら新たな汗をかこう。

### 上宮津小学校卒業生の推移



## 第3回サロン・ド・カミヤツ

男性ボランティアによる季節の生け花



弁慶寿司の出張屋台で握りたてのお寿司をいただきました



天橋園のデイサービスの職員に来て頂き楽しいゲームをしました



## 地域に育まれる子どもたち

上宮津小学校 校長 牧野俊子

公民館関係の皆様を始め、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動の充実にむけ、多くのご支援・ご協力をいただきありがとうございますこと、まずもって心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、明治六年八月に盛林寺本堂を借りて「与謝郡喜多小学校」として本校が開校されてから、今年で百四十年となります。

明治十四年に公民館の場所に校舎が完成し、昭和六年に現在の場所に移転されました。そして、現在の校舎の竣工は昭和五十七年。当時の児童数は二百三十〜二百四十名位で、現在の十倍。それから三十年。今年は全校児童が二十三名に減少したため、複式学級が、三・四年、五・六年の二学級となり、子どもたちに充実した教育環境を提供するという意味では厳しい状況となりました。

しかし、複式学級となったことで、子どもたちに「先生に頼ってばかりはいられない自分たちのことは自分たちで進めなくてはいけない。」という意識も芽生え、自主的に行動する姿や



友だちを思いやる行動も多く見られることを嬉しく思っています。

ところで、子どもたちは、知識はあるけれど実体験が少なく、以前は経験して当然と思われる遊びや生活体験がない子どもも多くなり、遊びや体験を通して日常的に人間関係を深めたり体力を養ったり、公共心を身に付けたりすることが難しい状況が見られます。

しかも、本校は、少人数の限られた集団ですので、学校生活の中で子どもたちに必要な充実した経験を積みさせることには限界があります。

しかし、上宮津地域は、緑の少年団活動をはじめ、田植え・稲刈り体験等、子どもたちに体験の場・経験する機会を多く設定してくださっています。

そして、そればかりでなく、子どもたちの健やかな成長を願い、見守ってくださるたくさんの方々の温かさにも包まれることで、子どもたちの成長が支えられているように感じます。

一年後には閉校となる上宮津小学校ですが、子どもたちにここ上宮津でしか体験できない豊かな経験を積みませ、これからも、ふるさと上宮津が大好きな子どもたちであるよう、そして、将来社会の形成者として自立した社会人になれるよう、皆様と共に大切に育てたいです。ご協力よろしく申し上げます。

# 和火、城作りを通じて

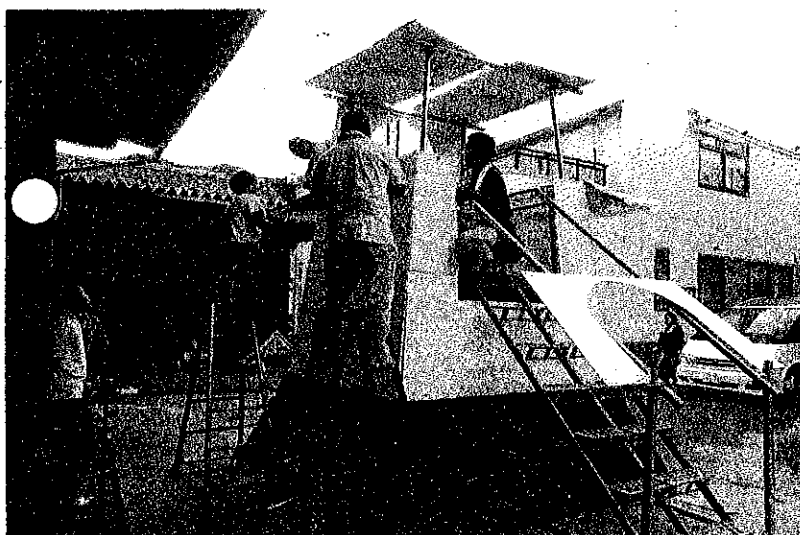
桑原逸人

昨年の夏、盆踊りの反省会の時「城、作ってくれへん？」と上宮津公民館の粉川さんに言われました。

かくかくシカジカでチーム上宮津で作ることになり、何も無い所からのスタートとなりました。

第1回、城作りの有志の会で大体の話をし、それを元に一つの図面に起こして公民館へもって行きました。粉川紀〇さんと奥〇江里さん（ここでは名前は伏せておきます笑）に「ここはこうやるー、こっちはもっとうー、こっちはもっとうーして・・・」と出るわ出るわ、手間も考えず難しい注文まで。

第二回、有志の会で城作りの材料を買い出しにいく事にしました。さすが上宮津、みんな軽トラに乗ってきましたが、5mの単管は積めません。そこで城作りのメンバーでもある北丹石材のトラックに協力していただき、準備完了。



骨組みは若手大工の作業。みんな道具や、脚立を持ち寄りメンパーが見守る中完成させ、城と言えば石垣づくり。発泡スチロールを張り合わせる作業は、総勢十五人くらいで立派な石垣を作り上げました。屋根は一番のこだわりを言われた部分。瓦に見せるからとプラスチックの Copp を切って並べる作業も老若男女多数の方で仕上げました。



そして Teppen に輝くのは黄金のシャチホコ！これは白石さんの手作りです。城全体を引き締めてくれました。

みんな時間の無い中、少しの時間でも作って集まり、作業をして見事築城させる事ができました。アイデアもみんなで相談すれば誰かが良い答えを出してくれました。みんながそれぞれ色んなつながりがあり協力し合える、協力したい人柄の大傑作！！になったのではないのでしょうか。

## 城製作者(上宮津有志)

藤田淳志 品川幸治 桑原逸人 白石裕久  
岡田英大 奥野敦 奥野江里 奥野めぐみ  
粉川正太郎 粉川紀子 粉川広士 粉川和子  
上家春美 智原芳明 古井元也 細見厚子  
細見町子 宮本哲雄 八尋慈教

和火実行委員会

今回は宮津市のイベントとして一つになれましたが、この先も何かがある度に、メイド・イン・カミヤツを生かして育てる取り組みとして続けていければ子ども達にも「上宮津にしかない」良いものを感じ取って成長してくれらるのではないかな？と感じさせられました。

最後になりましたが、この城作りを通して色々な方々と協力し合えた事に感謝しています。ありがとうございました。

## 大掃除 8月4日

天候が余り良くなかったので畳を外で干す事が出来ませんでした。それでも床板を上げて風を通したり、庭木の剪定や、二階の窓拭きなど普段手の届かない所や、雨戸の修理までしていただきました。

自治会、公民館活動推進委員、それに日頃から公民館を使って活動しているサークルや団体の皆様が中心となって行っていました。



## 後期事業報告

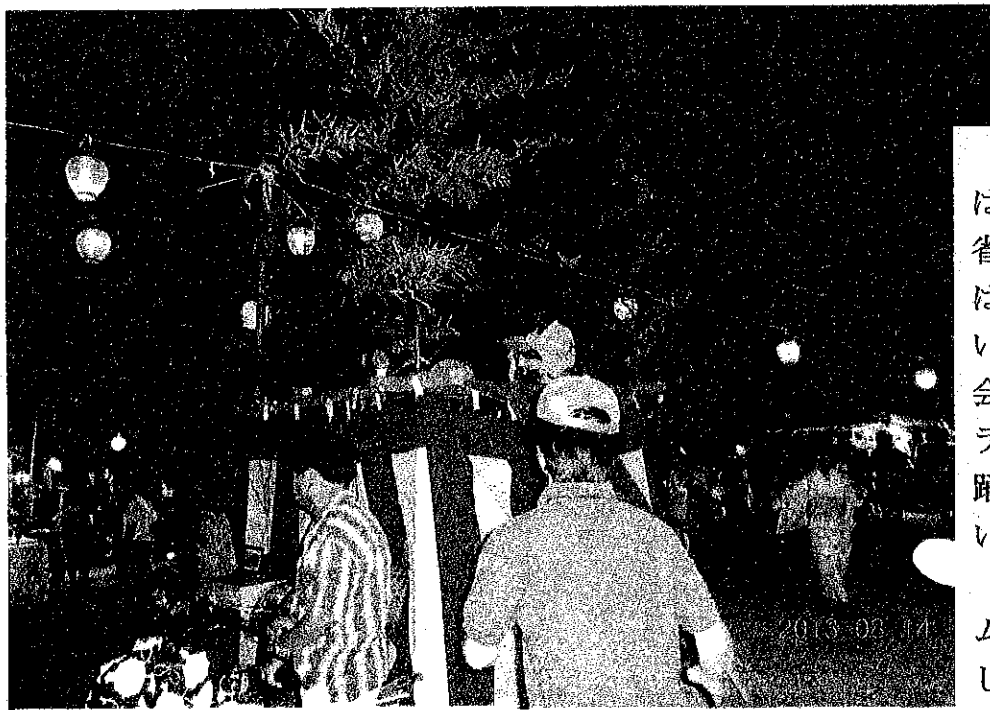
H25年8月～H26年3月

## 盆踊り大会

8月14日

上官津の盆踊り大会は、地元はもとより、故郷でお盆をと帰省されている人たちが、この日ばかりはと一堂に会し、にぎわいました。上官津音頭踊り保存会をはじめ上官21夢会議、ボランティアの皆様とともに盆踊り実行委員会をつくり行ないました。

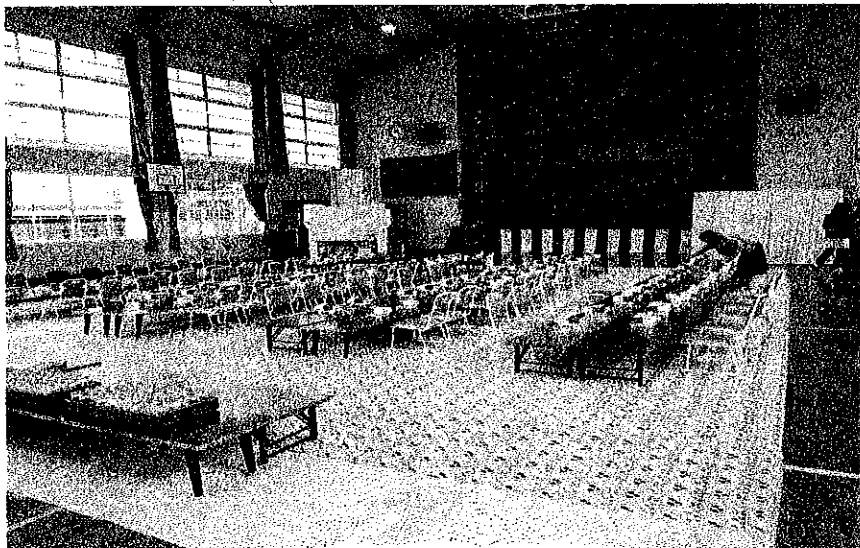
踊りをはさんで模擬店、ゲームコーナー、ビンゴ抽選会と楽しいひと時を過ごしていただきました。



## 敬老会

9月22日

上官津自治連合会、社協上官津支会と公民館の共催で実施しました。  
上官津小学校の体育館で遺族会と七五歳以上の皆様を招き行いました。今年には米寿が一八人と過去最高でした。舞台上で小学生の発表会や、踊り、楽器の演奏が行われ、全員が上官津音頭を踊るなど盛り上がりました。



## 運動会

10月13日

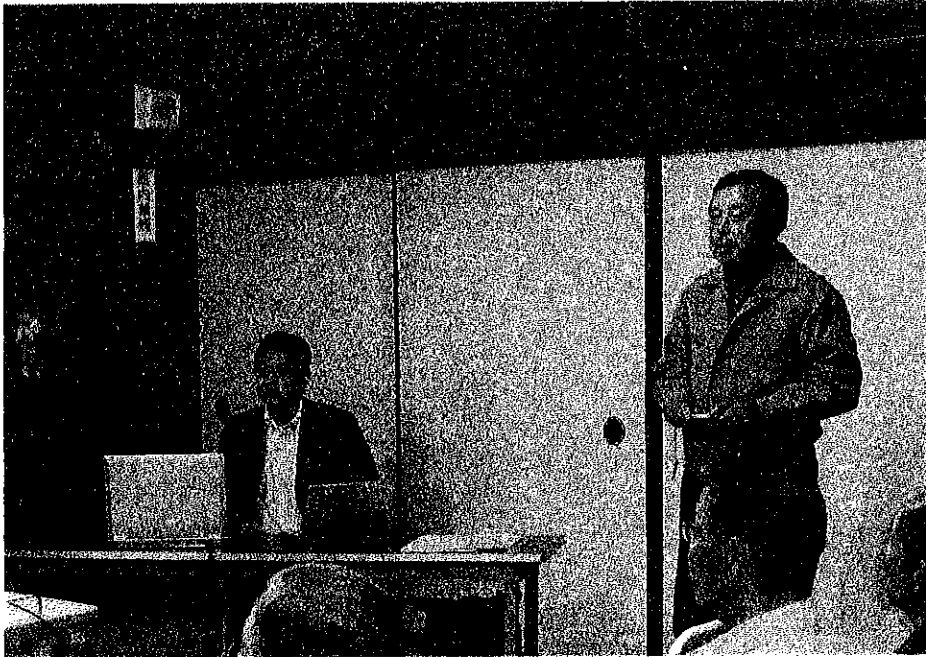
今年の運動会は、小学校と一緒に  
 行って行きました。  
 小学校の生徒数が少なくなったのが  
 原因です。学校だけでは応援したり、  
 観戦したりする人が少ないので、より  
 多くの皆さんに児童が一生懸命競技や  
 演技をしている姿を見て頂きたいから  
 です。午前中は、小学校が中心、午後  
 は地域の運動会という構成でした。子  
 供たちにとって地域の皆さんの応援は  
 大きな力になりました。



## 防災講演会

10月24日

マイ防災マップ作りで地域の活性化  
 を目指す取り組みをしています。その一  
 環として、不慮の災害に備えるために、  
 地域の皆で知っている危険箇所の情報  
 を出し合う大切さや、荒廃した森林の危  
 険性等上官津の実情に当てはまる内容  
 の講演をしていただきました。



## 手芸教室 11月5日

農業文化祭を前に松縄手の松岡泰子  
 様にお世話になり毛糸の手芸教室を開  
 催しました。  
 棒針やかぎ針を使って、帽子やマフラー  
 の作り方を教えて頂きました。  
 出来上がった作品は、農業文化祭の手  
 芸品コーナーで展示をして頂きました。





**農業文化祭**

11月9.10日

今年も多くの作品が並びました。館内では、絵画、写真、手工芸品、生け花、陶芸、それに小学校児童や保育所園児の作品展がおこなわれました。JAの旧事務所では、餅つきと婦人部の炊き出しが行われました。テント下では、農産物の即売や模擬店があり、体育館ではビーチバレーボール大会があり多くの人でにぎわいました。老人会のグラウンドゴルフも行いました。

**しめ縄づくり**

12月7日

「我が家のしめ縄は自分で作る」と熟練した人が多くなりました。今年のしめ縄づくりは国際色豊かでした。アメリカ、イギリス、ニュージーランド等、与謝野町や京丹後で外国語の講師として訪れている七人が体験に来てくれました。苦勞していましたが、それでも皆さん土産用が出来て上機嫌でした。

**新春お楽しみ会 1月11日**

上宮津に伝わる伝統の正月遊びを子どもたちと、民生委員、地元老人会、青少年体験活動推進委員それに公民館活動推進委員が参加して下さいました。

餅つき体験をした後、丸めて丸餅を作りぜんざいやお土産にしました。昼御飯用におにぎりを握りました。

あいにく外はぬかるんでいて凧揚げは出来ませんでした。室内では、コマ回し、めんこ、羽つき、福笑、すごろくなどを行いました。なかでもコマ回しは、童心に帰った大人が夢中になっていたようです。



## 健康講演会

2月7日

今日からはじめる健康づくり  
 寝たきり認知症にならないためにⅡを  
 テーマに宮津市健康福祉室健康づくり係  
 長河原哲也氏と社会福祉士太田有美子氏  
 の講演。それに長野県池の平ホテル健康  
 指導士 櫻井春奈、上條聖一の両氏によ  
 るⅡ冬季でも自宅で出来るトレーニング  
 とインターバル速歩Ⅱの実技をして頂き  
 ました。

認知症は誰もが通り得る病気で、刻一  
 刻近づきつつあるものである。予防と患  
 者への対応策、運動効果についても分か  
 りやすく説明していただきました。



## 新春囲碁大会 2月11日

上宮津公民館の囲碁教室の皆さんが  
 中心となり、毎年建国記念日の祝日恒  
 例の新春囲碁大会が開催されました。  
 うっすらと雪の残る寒い日でありま  
 したが上宮津のみならず宮津市内から  
 の愛好家も含め二〇名が参加、熱戦が  
 練り広げられました。戦いは、若駒組  
 と白馬組の二組によるリーグ戦で行わ  
 れ若駒組は野津善弘様、白馬組は羽淵  
 優様がそれぞれ優勝されました。



## 男の料理教室

3月2日

喜多の直田国昭様に講師をお願いして鶏肉料理を作りました。  
 鶏をさばくところから始め、ネギ  
 と肉で串焼き、手羽や肝は塩コショ  
 ウで味付けて焼き、肉は唐揚げにし  
 ました。出来上がりの熱々料理を食  
 べながら次のメニューを作りました。  
 仕上げは、ガラで味付けをした  
 ラーメンと親子丼でした。

